

この人に会いたい

趣味を広げて地域と関わり続ける

横山 一郎さん

落語のボランティア公演を百力所以上で行ってきた横山一郎さん(77歳)。昨年の名東区民美術展では、水彩画部門で中日賞、写真部門で区長賞を受賞。

落語のボランティア公演を百力所以上で行ってきた横山一郎さん(77歳)。昨年の名東区民美術展では、水彩画部門で中日賞、写真部門で区長賞を受賞した。学区の民生委員児童

委員を7年半務め、名東鯨友会では10年ほど前にイベントサポートグループを立ち上げ、同クラブの名東スイミングクラブの代表と、水彩画・水墨画の同好会の代表でもある。何刀流?と数えなくなる多才な方だ。ところが、水彩も写真も学び始めたのは、63歳で退職してから。

落語は、大学時代に大学の落語研究会の会長と下宿で同居していた覚えだ。退職後は、「自由に

なった」と自宅でテレビの番をする毎日だったが、見かねた妻に「名東生涯学習センターで何かやるように」と勧められた。同センターで活動する名東陶芸クラブの浅井会長(当時)に連絡すると、横山さんの落語に興味を示し、陶芸ではなく落語で入会を許された。

同クラブの会員の多くが名古屋市高年の「地域との関わり」を考え、横山さんが「地域との関わり」を考えた。学園廃止は免れたものの、横山さんが「地域との関わり」を考えた。学園廃止は免れたものの、横山さんが「地域との関わり」を考えた。

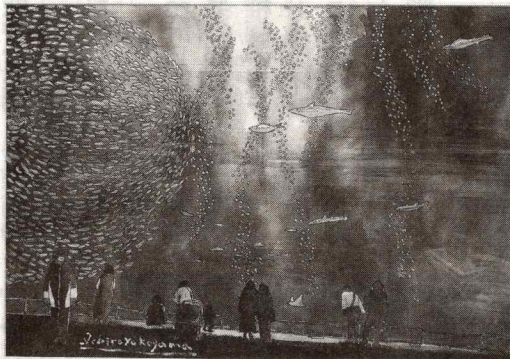
退職後の暮らし方が判らない人は多いが、「とりあえず何かやってみる事です。動かないと世界は変わらないです」と話す横山さん。多彩な経験に裏付けられた言葉には説得力があった。



高齢者給食会での落語を披露(西三十三)



昨年、交通安全川柳大会で最高賞を受賞した表彰式で。同大会では3回入賞



昨年の区民美術展では水彩画で名古屋港水族館を描き中日賞、写真部門で区長賞を受賞

めいとう福祉まつりでは鯨友会のカメラマンとして参加



1年生の秋、市の事業仕分けで同学園が廃止の判定を受けた。横山さんは、学生協議会役員として存続の署名活動を展開、同学園の学長でもある河村市長に存続の直訴に市役所へ。市長から「卒業生が地域のために働いていない。学園補助の市民税が無駄になっている」と言われた。現役時代から、目の前にあることに真摯に、しかし軽快に取り組んできたことが、縁をつなぎ、世界が広がった。

大学鯨城学園の卒業生であることから、翌年4月に同学園の陶芸学科に入学。学生協議会では広報を担当した。1年生の秋、市の事業仕分けで同学園が廃止の判定を受けた。横山さんは、学生協議会役員として存続の署名活動を展開、同学園の学長でもある河村市長に存続の直訴に市役所へ。市長から「卒業生が地域のために働いていない。学園補助の市民税が無駄になっている」と言われた。現役時代から、目の前にあることに真摯に、しかし軽快に取り組んできたことが、縁をつなぎ、世界が広がった。